

第2回沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議

令和6年度の実組について

内閣府沖縄総合事務局運輸部

沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言、県民運動推進会議

- 企業や個人の行動変容と利便性の高い交通ネットワークの構築を一体で、県民を挙げて推進。
- 「DX・GX」 × 「行動変容」 × 「ビジネスリフォーム」により、移動の質の向上、生産性向上、都市の付加価値向上、エネルギーの安定供給・省エネ、域内好循環等に繋げる。

※ 経済団体、金融機関、エネルギー、観光、交通、県、国、政府系金融が参画。
※ GW2050推進協議会ほか経済界の取組や、北部・離島等の各地域の主体とも連携。
※ 官民共同宣言を採択。秋以降、企業等の更なる巻き込みのため、パブリックインボルブメントや実証事業の戦略立案・実行。年度内に第2回会議、シンポジウムを開催。



県民運動推進会議「マーケットデザインチーム」

リ・デザインの取組とチームの参画企業の各事業を連動し、
「移動」の質の向上を加速する市場を創出



<企業や個人の行動変容の推進>

- 行動変容の気運作り、広く住民・企業を巻き込む
 - ・リモート化やフレックス、職住教近接等を含む行動変容・ビジネスリフォームの推進
 - ・バス無料デー(これを契機としたアクションの呼びかけを実施)
 - ・パブリックインボルブメント手法の活用(市民・観光客、企業向け。オープンハウス、ワークショップなど)
- 成功事例の設計・創出(企業・学校)
- 優良事例の発信、将来的なプラットフォームの発展

<交通サービスデザイン・機能の再構築>

GW2050 PROJECT、
未来創造協議会

空港を起点とした
質と利便性の高い交通ネット
ワークの構築など

・北部の官民組織
・宮古・八重山その他離島地
域の主体 など

北部・離島などの地域特性
に合わせたライフスタイル、
サービスデザインなど

沖縄交通リ・デザイン官民共同宣言

～高付加価値経済と持続的な発展に貢献する交通を目指して～

交通や都市は、人々の暮らしや余暇、地域の経済活動を支え、持続可能な発展の基盤となるものです。これまで、沖縄では、自家用車を前提としたライフスタイルとともに、経済成長を実現してきました。しかしながら、慢性的な交通渋滞により、那覇市内の旅行速度は日本ワーストクラスであり、沖縄県全体では労働力に換算すると生産年齢人口の約6%相当が失われています。また、著しく低い公共交通の分担率に伴う地球や地域の環境の悪化、二次交通の利便性の低さによる観光客の沖縄離れなど、このままでは、沖縄の生活・社会、ビジネス、観光の質の低下につながることも懸念されます。

このような認識のもと、わたしたちは、沖縄に暮らす住民はもとより、経済・金融・エネルギー・観光・教育・交通・都市といった多様な主体も一体となって、「沖縄のありたい姿」の実現に向け、「ライフスタイルの転換」と「効率的な移動環境の整備」を車の両輪として、沖縄の交通や都市のリ・デザイン（再構築）に取り組む続けることをここに宣言します。

- 一、 沖縄の将来は、わたしたち沖縄に住まう人々のもの。そのことを強く自覚し、社会の変化にも対応しながら、住む人と訪れる人の誰もが満たされ、世界に開かれた「沖縄のありたい姿」を、わたしたちみんなで構想し、描いていきます。
- 一、 移動・行動の変容を通じて人々のライフスタイルを転換し、より健康的で充実した生活を実現するとともに、持続可能なビジネスを創出し、労働生産性を高め、暮らしとビジネスの好循環の実現に向け行動します。まずは、令和6年9月の沖縄バス無料デーを端緒として、わたしたちの各々が率先して、在宅勤務やノーマイカー通勤等の自家用車中心の生活からの脱却に向けた行動に継続して取り組みます。沖縄に住むわたしたちがオーナーシップと決意を持って、沖縄らしい自由でのびのびとした豊かな生き方を自ら実践し、訪れる人々にもその価値を広めていきます。
- 一、 まちづくりと一体となった交通拠点の整備や新たな公共交通システムの導入の取組と併せて、デジタル技術の活用、移動のあり方の再編、事業者や分野を超えた連携も含めて、利用者の目線に立って、今ある交通リソースのポテンシャルを最大限に引き出します。ライフスタイルの転換と持続可能なビジネスの創出の好循環を支え、沖縄の高付加価値経済の発展を促し、人々の暮らしに根差した社会共通資本として、「誰でも、いつでも、どこからどこへでも」交通の空白やストレスなく、効率的に移動できる環境の創出に向け取り組みます。

- 令和6年度は、県内各地で官民の様々な主体が交通のリ・デザイン（再構築）の取組を行ったところ。
- このうち、沖縄総合事務局運輸部として、制度面・予算面※での支援や直轄調査を行った取組の一覧を整理。
※国土交通省補助金（共創・MaaS実証プロジェクト、MaaS基盤整備事業 等）、内閣府補助金（沖縄持続可能な交通環境構築推進事業、新たな沖縄観光サービス創出支援事業）

エリア	主体	事業・取組名	取組の類型
本島全域・宮古・八重山	タクシー協会	日本版ライドシェアの導入	交通手段の多様化・移動支援 事業基盤強化
本島全域	沖縄県	沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業	市民の主体的な取組の促進
本島中南部	沖縄県	てだこ浦西駅結節機能強化	快適な移動環境の整備
	沖縄MaaS運営会	手荷物配送の活用による沖縄MaaS実証	快適な移動環境の整備
	琉球大学	琉大キャンパスのスマート通学大実験	インセンティブ設計・好循環化
	南風原町	AIオンデマンド交通実証運行	交通手段の多様化・移動支援
	うるま市	市産EV自動車を活用した離島公共交通の実証	移動支援
	グランシーノ株式会社	「北谷GATEWAY」事業	快適な移動環境の整備
	沖縄総合事務局、沖縄振興局	首里地区におけるPI&ライフスタイル転換実証	市民の主体的な取組の促進
本島北部	NPO法人東村観光推進協議会	nottecoやんばる東村	交通手段の多様化・移動支援
	恩納村オンデマンド交通推進コンソーシアム	恩納村内におけるオンデマンド交通実証	快適な移動環境の整備
	一般社団法人名護スマートシティ推進協議会	名護市の地域交通課題解決を担うモビリティ人材育成事業	人材育成
宮古	沖縄県・多良間村	多良間型交通共創モデル実証事業	移動支援
八重山	八重山観光・交通コンソーシアム	八重山観光・交通人材育成プロジェクト	人材育成
		八重山観光MaaS推進事業	快適な移動環境の整備
—	沖縄県	交通デジタルシステムの活用検討	快適な移動環境の整備 インセンティブ設計・好循環化 事業基盤強化
	各交通事業者	キャッシュレス決済の導入	快適な移動環境の整備

- ドライバー不足等を背景に地域における移動の足の確保が課題に。
- 地域そして交通サービスの持続可能性と移動（生活・観光）の質の向上を図る観点から、公共交通を補完する新たな仕組み（道路運送法関連制度の見直し）を整え、これを沖縄でもスタート。

1.日本版ライドシェアについて

- タクシーが不足する地域・時期・時間帯において、タクシー事業者が、遊休タクシーや一般ドライバーを活用して、タクシーが不足する分の運送サービスを提供。
- 沖縄では「金・土の16時から翌朝5時までの時間帯」からスタート。今後の運用を見つつ見直し。



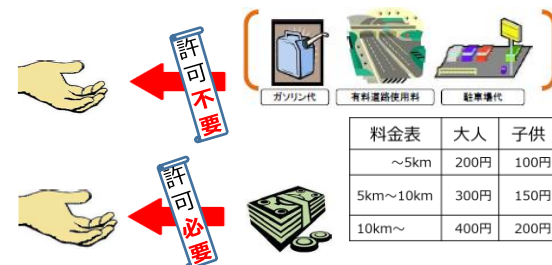
2.公共ライドシェアについて (自家用有償旅客運送の見直し)

- ・タクシー事業者と自治体、NPO、観光協会等が、交通サービスを共同運営し、一体的にサービスを提供できるように。
- ・宿泊施設や旅行業者が、自社の車両やドライバーを提供し、上記のような事業と一体的にサービスを提供できるように。
- ・その他、受託により株式会社でも自家用有償旅客運送事業に参画可能とするほか、運行区域の柔軟化、ダイナミックプライシングの導入、輸送対価の明確化、公共交通が提供されていない時間帯での自家用有償旅客運送の提供を可能にするなど。



3.許可・登録を要しない運送

- 公共交通機関や自家用有償旅客運送の果たす役割を補完する観点から道路運送法の許可又は登録を要しない運送について整理。



運送主体：特定非営利活動法人東村観光推進協議会

導入経緯：

- ・ヤンバルの自然環境を活用したエコツーリズムを促進する検討を進める中で、年間35万人の観光客や1,600名の村民の移動の足の確保を目的として、公共ライドシェアを導入。

輸送エリア：東村発着～北部全市町村

運行時間：午前7時～24時（年中無休）

※オペレーター受付時間：9時～24時まで

運賃：初乗り1km300円（加算）100mごとに20円

迎車料金200円、時間運賃1時間4,000円

留意点：

- ・配車手配は電話及びWeb予約。
- ・保有車両2台、持ち込み車両2台での合計4台で運行。
- ・観光推進協議会の職員5名がドライバー登録をしている。
- ・村内には乗合バスやタクシーがなく「地域の足・観光の足」が不足。

○ nottecoやんばる東村



写真：notteco東村HP

○ 使用車両



○ 東村の主な観光施設

写真：東村役場



村民の森つづエコパーク



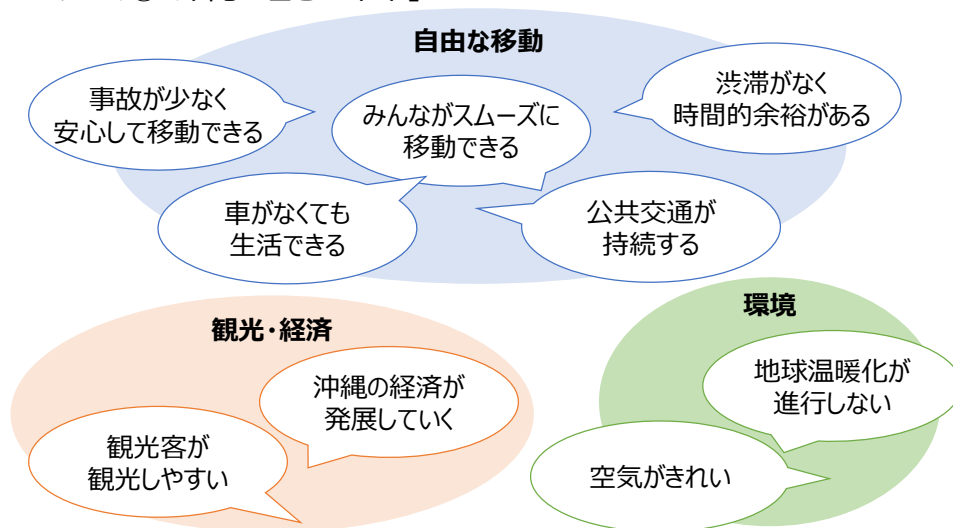
東村ふれあいヒルギ公園

写真：東村HP

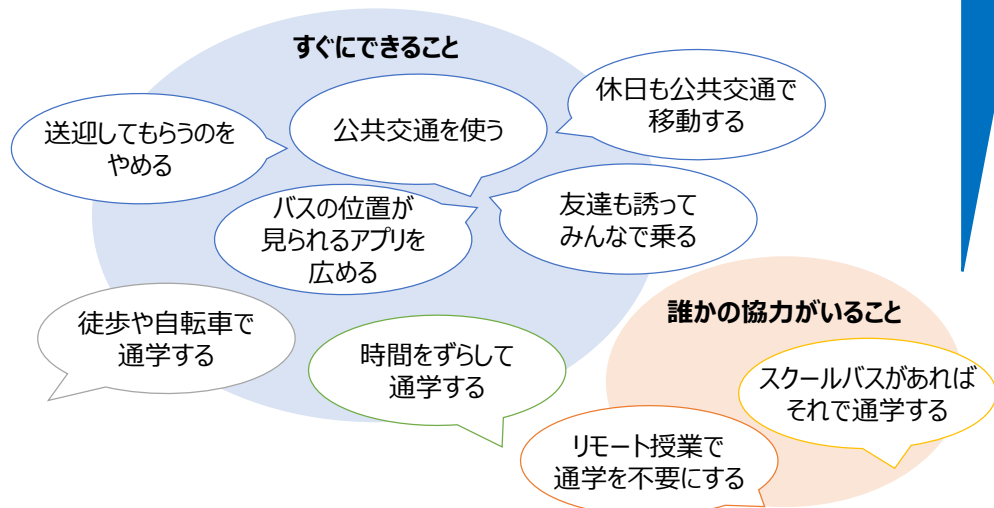
首里高校の1年生による取組

<ワークショップの実施>

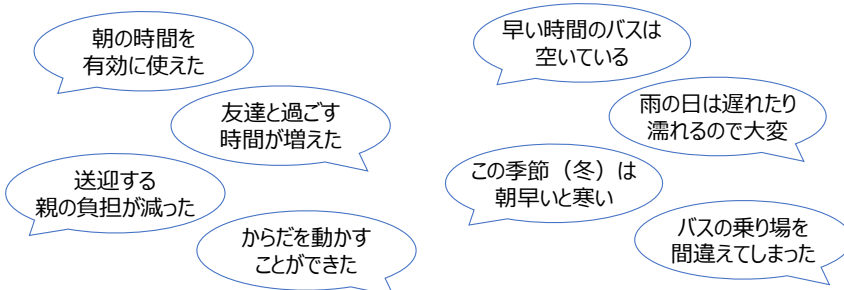
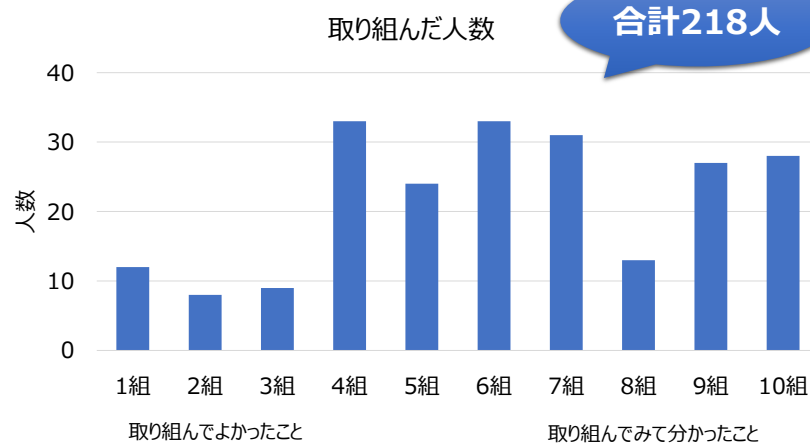
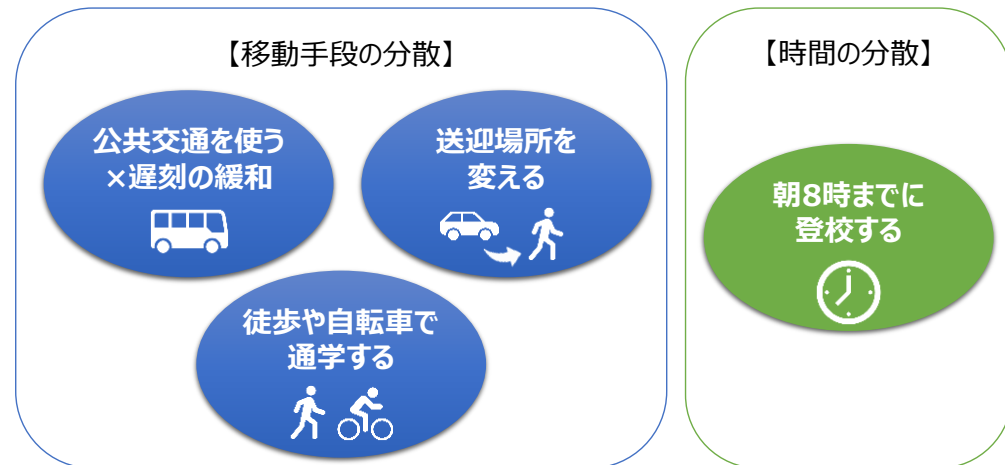
・テーマ①「沖縄の理想の未来」



・テーマ②「理想の未来のために私たちは何ができるか」



<通学に関する主体的なアクション>



第1回 沖縄交通リ・デザインシンポジウム

「ライフスタイルの転換」と 「効率的な移動環境の整備」に向けて

沖縄では、県民の皆様や県内各界の多様な主体が一体となり、自家用車を前提としたライフスタイルから脱却し、沖縄の経済、社会、環境の持続的な発展に貢献できる交通へのリ・デザイン(再構築)に向けた取組が進められています。本シンポジウムでは、今年度に沖縄県内各地で行われた取組を紹介し、有識者も交え、県民全体で沖縄交通リ・デザインを進めるための方策について考えます。

日時 2025年3月18日(火) 15時30分～18時

場所 沖縄県立博物館・美術館(おきみゅー)3階講堂
※駐車場に限りがあるためご参加の際は公共交通機関の利用をご検討下さい

基調講演 講師:琉球大学 神谷准教授
「沖縄交通の課題 リ・デザインの必要性と方向性」



- プログラム**
- 県内の取組事例紹介
沖縄県、沖縄銀行、特定非営利活動法人OTTOPO、KPMGコンサルティング株式会社(名護スマートシティ推進協議会構成企業)
 - 特別発表
首里高等学校代表生徒
 - パネルディスカッション
テーマ:ライフスタイルの変革に向けて

参加申し込みはこちらから(参加費無料)→

URL: <https://forms.office.com/r/QDBP7m2UTT>



沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議 事務局
(特別協力:琉球大学 島嶼地域交通課題解決学術ネットワーク)

沖縄交通リ・デザインの背景・目的

沖縄では、自家用車中心のライフスタイルがこれまでの成長を支えてきた一方で、沖縄の生活・社会、ビジネス、観光、環境の質の低下につながる等の課題が生じています。

こうした課題を解決し、「沖縄のありたい姿」の実現に向け、多様な主体が一体となって、ライフスタイルの転換と「誰でも、いつでも、どこからどこへでも」効率的に移動できる環境の創出に取り組んでいます。



本シンポジウムで紹介予定の取組

沖縄交通リ・デザインの機運を醸成し、取組の輪を拡大するため、県内における先進的な取組、優良事例を紹介します。

● 首里高校および県内銀行の取組

首里地域において、首里高校の皆様、琉球銀行・沖縄銀行・沖縄海邦銀行の皆様が、通学・通勤の手段や時間を変える取組を行いました。



● 沖縄県の取組

沖縄県では学生の送迎に関する問題点や解決策について、本島北・中・南部地域の大学やワークショップ、県内ほとんどの高校生や保護者に対するアンケート等を行い、「県民等が望む移動・交通の姿」のとりまとめを行いました。



● KPMGコンサルティング(名護スマートシティ推進協議会構成企業)の取組

「交通空白」や観光二次交通等の北部地域の交通課題の解決のため、地元学生等との共創ワークショップ等を実施し、地域課題の解決に向けたモビリティの導入案やそのビジネスモデルの構築に取り組みました。



● 特定非営利活動法人OTTOPOの取組

県内50以上の交通事業者のGTFSデータをオープンデータとして整備、配信するなどの取組を行い、令和6年交通関係優良大臣表彰を受賞しました。



内閣府沖縄総合事務局ホームページ
「沖縄交通リ・デザインに向けた取組」紹介サイト
<https://www.ogb.go.jp/unity/9280/okiko-ridezain>



【お問い合わせ先】
内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室
TEL:098-866-1812

これまでの取組や県民の皆様の声をご紹介しますので、ぜひご覧ください！

沖縄での交通サービス設計の視点

- ✓ 観光立県である沖縄においては、平日日中の時間帯について、観光客の移動に合わせた路線・ダイヤとするなどの工夫を通じて、観光面で収益性を確保しつつ、通勤・通学、介護、医療、買い物等の地域住民の足を確保するサービス設計が重要。
- ✓ その際、公共交通の整備により介護保険料が低減する、移動機会（＝アクティビティの機会）が増加するなど、クロスセクター効果、交通以外の分野における価値の最大化という観点を盛り込むことも重要。
- ✓ 島嶼県である沖縄では、様々な効果について、外的な要因を取り除いて測定することが比較的容易。
- ✓ 地域の抱える課題に応じて、移動の効率化・高速化を実現すべき領域と、移動の保証を実現すべき領域の両方があり、沖縄全体のリ・デザインを進めるためには、両方の視点が必要。

巻き込み、自分事とするための工夫

- ✓ 「特に困っていない」という声を地域からよく聞く。人生やライフスタイルがどう変わるのかイメージできるようなきっかけ（タッチポイント）を日常生活の中で多く設けることが必要。
- ✓ 競争・ゲームの要素を盛り込むことや、ワークショップ等により、「楽しく」創る／変える。
- ✓ ペルソナを活用することで、様々な人の視点に立って、ちょっとしたことも含めた困りごとに目を向けることにつながる。

「質」の高い移動について

- ✓ 「質」の高い移動とは、
 - ・ 高速で移動できること
 - ・ 定時性が確保されていること
 - ・ 遅れた場合の所要時間に予見可能性があること
 - ・ 遅れた場合に代替可能な他の交通手段があり、それらがストレスなく選択できることを満たすもの。
- ✓ あわせて、移動時間に他の活動ができるという公共交通機関のメリットを最大化する。